

第9号 パークらぼ通信

公園拡張をきっかけとしたみんなで進める公園づくり



ウォームアップ！
区民が参画して運営する公園への準備



区民が運営に参画することを目指す、 玉川野毛町公園



公園づくりに区民が参画する、玉川野毛町公園拡張事業。令和5年2月に取りまとめられた玉川野毛町公園拡張事業基本設計書において書かれた通り、区民が公園を「身近な暮らしの舞台」として、どのように豊かに使うか、区民発意の活動を現地で行い、設計や今後の活動に反映させ、試行錯誤を繰り返しながら公園を育てていく住民協働の取り組み（玉川野毛町パークらぼの取り組み）が行われてきました。

令和5年度末までの取り組みで、公園のカタチへの反映をする「公園づくり」のフェーズが一段落し、現在は「公園を育てていく活動」を開園後の公園運営にどう反映させるのか、区民の有志の方々が検討し、準備に奔走するフェーズを迎えています。



区民の会は何をする組織？

令和6年3月に発足した「玉川野毛町パークらぼ区民の会」は区民の有志の組織です。自発的な意思を持ち、玉川野毛町公園のコンセプトブックに謳われた住民協働の取り組みの方向性に賛意を示した方々によって構成されており、公園を管理する世田谷区、区と区民組織の間に入って支援を行う中間支援組織とともに開園後の公園の運営に携わるべく、現在準備を進めています。

開園に向けてのスケジュール

計画されたすべての施設の完成まであと1年半を切りました。区民の会の皆さんは、公園の魅力を高めるためにどのような活動を行うか、区や中間支援組織とどのように連携・運営するかなど、具体的な課題を前に対話と議論を行なっています。

2023(令和5年度)

公園運営に関する区民組織の設立
玉川野毛町パークらぼ 区民の会 発足



2024(令和6年度) 区民の会 活動開始

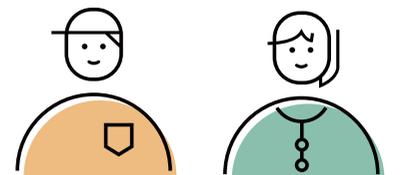
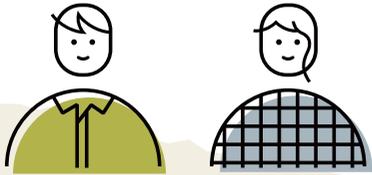
玉川野毛町パークらぼ 区民の会
活動のトライアル 1年目



2025(令和7年度) 開園に向けた準備

活動のトライアル 2年目
世田谷区、中間支援組織との意見交換





今年度どうだった？

はじめに、今年度(2024年度)活動してみて印象的だったことをそれぞれ聞いてみました。

公園という開かれた空間の強みと可能性を感じた

松井:「防災食を作るイベントを企画した際、最初は防災の話に関心を持つ人は少ないと思っていた。でも実際にはファミリー層の意識が高く、パンケーキ作りを通じて親子で真剣に話を聞いてくれ驚いた。食を囲むことで自然と対話が生まれ、交流の壁が低くなったとおもう」

めぐ:「公園で活動することで、顔見知りが増え、地域に心強い繋がりができることが心強い」

参加する人たちの期待を背負う自覚と責任

福永:「どんぐりプロジェクトでは、3年目の苗木が2m以上に成長し、それを見守る人も増えてきたし、苗を育てなければという責任感もうまれた」

個人としての気づきと成長

水野:「ゴールが決まってそこに向かって効率的にやり抜くという仕事のやり方を公園で踏襲しようとしていたが、そのやり方しか知らない自分に気がついた。楽しむことを第一に漂流することを覚えて、自分自身の成長につながった。」

山中:「価値観の広がり。いろんな人と繋がりができて、やっぱりいろんな考え方があるんだってのは私の中でいい勉強になってる」

玉川野毛町パークらぼの取り組みに参画されている区民の皆さんに、より具体的な運営について検討し模索するフェーズに入ったこの取り組みで、どんなことを感じたか、お話をお伺いしました。

公園のウェルネスを考える
松井 哲憲さん



キッズチーム
山中 裕子さん



他の区民の人との交流は？

区民の会の人たちは、他の一般参加のみなさんをお迎えする立場。どんな交流があったのでしょうか？

福永:「落ち葉拾いリレーで、焼き芋が焼き上がるまでの間に子どもたちが積極的に活動に参加し、自然と関わりが生まれたことが印象的だった。活動のリピーターを増やすのが今後の課題」

松井:「パンケーキ作りの後日、公園の外で、ある子どもに『ありがとう!』と言われ抱きしめられたことがあった。公園での活動が単発のイベントではなく、地域のつながりを実感できてうれしかった」

山中:「子どもが自由に過ごせる公園だからこそ、世代を超えた交流が生まれているとおもう」

チーム循環
水野 可奈子さん



「理想の公園像16」と活動について

玉川野毛町パークらぼの取り組みでは、理想の公園像をワークショップでみなさんで話し合って決めました。その理想像にどれだけ活動が近づけたか聞いてみました。

松井：『16 災害時に役立つ公園』の実現に貢献できたと思う。また、防災や料理の仕方などの『09 学べる公園』、ファミリー層も含めた交流できる『08 交流がある公園』にもつながっていると思う」

福永：『13 豊かな自然を感じる公園』をベースに、都会でどんぐりを育てる活動は珍しく、自然を感じる事ができたと思う。『11 余白がある公園』『08 交流がある公園』も意識していきたい」

水野：「循環チームの活動では『08 交流がある公園』、今後の方針などを話し合っていく部会では『02 住民協働で運営する公園』。一番は『10 誰にとっても心地よい公園』を目指している。一人でも、家族でも、誰もが心地よく過ごせる公園でありたい」

めぐ：「キッズチームは全部かな。子どもと関わることで親や高齢者とも交流が生まれています。公園を大切にすることは、人間形成にもつながると思う」

山中：『01 いつもいつまでも、100年後も愛される公園』のあり方を考え続けています。価値観の変化には時間がかかるけれど、多世代が共存できる公園を目指したい」



今後の展望

どんぐりプロジェクト
福永 栄さん



キッズチーム
めぐさん

いよいよ来年、本格開園を迎えるにあたって、今後の展望をお聞きしました。

福永：「若い世代やリピーターを増やす活動を広げていきたい」

山中：「家庭ではやらないことを公園で体験できる機会を増やしたい。例えば、お手玉作りやリース作りなど、手を動かす活動など」

松井：「防災食だけでなく、季節の食材や地域の文化を取り入れた活動をしていきたい」

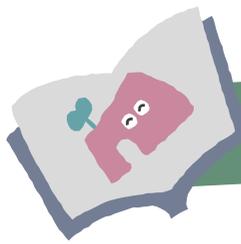
めぐ：「キッズチームは、年間を通じたイベントを企画し『お互い様』の文化を広めたい。公園を通じて、自然なつながりが生まれるように」

水野：「最終的には循環型の公園にしたい。公園が生活と密着し、持続可能な空間になるよう活動を続けたい」

山中：「活動を続けることで地域のコミュニティが強くなる。楽しみながら継続していきたい」

まとめ

今年度も公園での活動を通じて、多くの出会いや交流が生まれました。座談会では「お互い様」や「日常」といったテーマが浮かび上がり、公園での活動を通して考えるテーマが出てきたように思います。地域の人々にとってさらに居心地の良い場所になるよう、今後も活動を続けていきます。



拡張予定地開放日の

日常ニュースベスト10

令和5年度、公園の第一期工事が終わり、拡張予定地の開放日が今年度始まりました。公園運営を担う中間支援組織の皆さんに、開放日にどのような日常のニュースがあったのか、レポートしていただきました。

題して、日常ニュースベスト10!



01

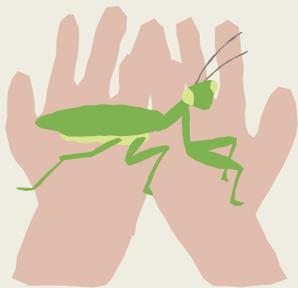


遊具がなくても走り回ってくれる保育園児たち

虫を探したり、積もった落ち葉に飛び込んだり、走り回ったり…こうした姿を見ていると、遊具が無くても自分たちで遊びを生み出して楽しんでもらえる環境なんだ！と実感できます。

02

どうしてもカマキリを捕まえない女の子の話



昆虫の中でも一番人気のカマキリ。いそうな場所を探しても必ずしも見つかるとは限りません。でも諦めずに探した結果、「捕まえた」と教えてくれた子がいました。カマキリには人を夢中にさせる力があるのです。

秋の利用者さん

03

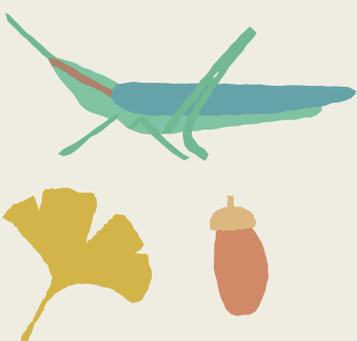


2期工事が始まることに伴って、利用できる場所が「草地の広場」のみとなりました。お散歩、ピクニック、虫探し…限られた空間の中で自分たちの利用の仕方に合わせた過ごし方を見つけてくれています。

04

バリケードがついちゃったけど南側のテーブルベンチ

お菓子を食べる、おしゃべりする、仕事をする、利用者さんの過ごし方は様々です。でもどんな利用の時でも人気なのが、南側（水道近く）のテーブルベンチです。目の前にバリケードが出来ても、変わらず人気です。



自然への関心が高い!

木の実や紅葉、見られる虫など、その季節ならではの拡張予定地の自然を現地で紹介しています。「これ探しに行ってみよっか〜」「こんなのあるんだね」など、みなさん良い反応をしてくださいます。

05

06

まだ一年半!?



「いつ公園ができますか?」という質問を多くもらいます。お答えすると「まだ一年半もかかるの!?!」と、だいたい驚きの声が返ってきます。みなさんの公園開園への期待値の高さを感じる瞬間です。

07

お気に入りの持ち物



キャッチボールを楽しむ親子はボールとグローブ、お気に入りの場所でのんびり過ごす家族は貸出用のアウトドアチェア。開放日に合わせて毎回のように遊びに来てくださる方には、お気に入りの持ち物があるようです。

お気に入りの場所でたたずむ

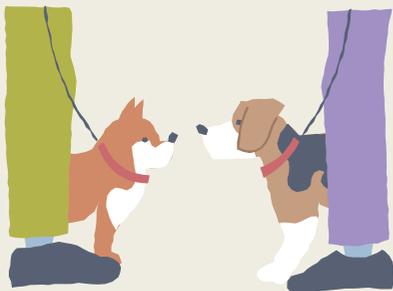
08



アクティブに動くだけではなく、ゆっくり落ち着いて過ごす方も多く見られます。日当たりのいいベンチ、広場の小高い丘、園路脇の少し窪んだスペース…それぞれにお気に入りの場所があるようです。

09

飼い主同士のコミュニケーション



わんちゃん同士のご挨拶や飼い主さん同士での情報交換など、交流の様子をよく見かけます。さらにわんちゃんに触れる小さな子など、わんちゃん連れの方もそうでない方も、自然とコミュニケーションが生まれています。



スマホをいじっている時間があまりない公園

10



子どもを遊ばせている間、親はついスマホばかり見て子どもとは別行動…実は拡張予定地では意外とそんな光景が見られません。親子で一緒に遊んだり散策したりして過ごすことのできる空間のようです。



2/16 勉強会レポート

「運営管理の学びの会」として、二子玉川公園の見学会を開催しました。

玉川野毛町公園拡張地では、現在各らぼプロジェクトの活動や、部会・委員会が活発に活動し公園の基礎作りが行われています。その一環として、他の公園の運営管理を学ぶため、パークらぼ区民の会を対象に見学会を実施しました。訪れたのは、近隣の世田谷区立二子玉川公園。同公園は住民協働で運営されており、ボランティアの公園サポーターから活動の工夫や課題について貴重な話を伺いました。二子玉川公園は開園してから約12年、サポーターの皆さんは途切れることなく活動を続けています。その中でどのような苦労や、楽しさ、活動の工夫があったかを区民の会メンバーも知ることができました。どうしたらパークらぼの活動も継続できるか、改めて考える貴重な機会となりました。今後も見学会を企画しますので、ぜひご参加ください。



玉川野毛町パークらぼ 中間支援組織 自然教育研究センター (CES) 田中さん 小高さん



第四回

拡張予定地の建築の 整備状況

公園のカタチ

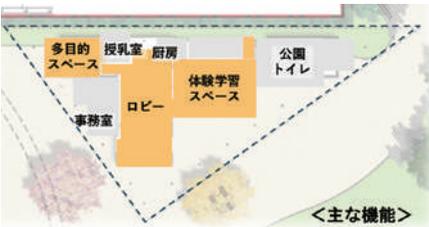
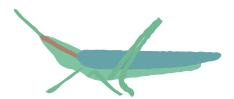
イチョウの木がシンボル

今ある公園の環境（イチョウ、古墳など）に加え、新しくつくる公園の風景と調和する建築を目指しました。



拠点施設・ナーセリー

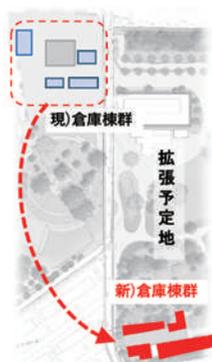
令和3年より区民の方々とのワークショップを経ながら計画を進めてきました拠点施設とナーセリーについて、令和7年春からの工事着工を予定しており、いよいよ建設が始まります。公園利用や活動の拠点となる三角形の大きな屋根を持つ拠点施設と、森づくりやウェルカムガーデンなどの住民活動を支える施設となるナーセリーは公園の豊かな緑の環境にふさわしい木造平屋で計画しています。拠点施設については軽飲食や休憩が可能なロビー空間や様々な住民参加による活動、交流、イベントが開催できる施設としており、ナーセリーとともに令和8年度供用開始を目指し整備を進めています。



公園の環境と一体化する軒下空間

拠点施設は、深い軒下空間を持ち、公園と一体的な活用ができる開放的な設えとしています。周辺の建物に合わせて低く抑えられた軒下をくぐって屋内へ入ると、三角屋根の形状に合わせて天井高が高くなった開放的な空間が広がります。公園の景色を見ながら思い思いの時間を過ごすことができる施設を目指して、これから工事を行っていきます。

※施設のイメージは、今後変更になる可能性があります



移転整備イメージ



令和6年度工事状況



南側には木々を新植し近隣住宅への圧迫感を軽減します。

バックヤード、防災倉庫

令和6年7月～令和7年3月にかけて、玉川野毛町公園既開園区域内の広域用施設(バックヤード)について拡張予定地へ移転整備のため、工事を進めています。移転後の機能は従来と同様、公園内の廃棄物ならびに玉川地域の剪定枝などの集積を行う倉庫、公園管理運営上の必要備品の保管場、公衆便所に加え防災備蓄倉庫を備えます。外観は、棟を小さく分割するとともに背面を雁行(がんこう)させることで、周辺から見た際の圧迫感を軽減し公園の木々と馴染むような外観デザインの計画をしています。



株式会社遠藤克彦建築研究所
代表取締役 遠藤克彦
玉川野毛町公園拡張事業の
建築設計を担当

©Neoplus Sixten Inc.

活動履歴



9/27(金)、28(土) 第9回オープンパーク

雨天のため活動の一部は延期となりましたが、虫とりを楽しむお子さんや散歩を楽しむ方などたくさんの方に来園いただきました。公園設計の進捗報告や便益・サービス拠点となる施設(案)の紹介パネルを展示し、来園者から様々な意見をお寄せいただきました。



パネル展示を確認する来園者

10/6(日)、10(木) 第38回アクティブDAY

オープンパークで延期になった玉川野毛町パークらぼで活動する8つのプロジェクトチームが「玉川野毛町公園から広がる健やかライフ」をテーマに様々なプログラムを実施しました。夕方からは、トワイライトコンサートと各プロジェクトチームの活動紹介を行いました。



持ち寄った品物を贈る『ぐるぐるマーケット』

11/3(日)、14(木) 第39回アクティブDAY

暖かく感じられる気候のなか、それぞれの活動場所に分かれて10月に行ったオープンパークの振り返りなどを含めた活動を行いました。キッズチームは「セミについて研究しよう」をテーマにセミの生態について絵本の読み聞かせや標本の観察を行いました。



キッズチームの「セミについて研究しよう」

12/1(日)、12(木) 第40回アクティブDAY

1日は「世田谷落ち葉拾いリレー2024」に参加された方の多くが拡張予定地内で行われている「らぼプロジェクト活動」にも参加していただきました。公園のウェルネスを考えるチームは災害時でもできる調理方法の紹介し、ポリ袋を活用したパンケーキづくりを行いました。



ポリ袋を活用したパンケーキづくり

1/9(木)、12(日) 第41回アクティブDAY

次年度の活動内容を話し合うチームが多く、「他のチームと一緒に活動に取り組みたい！」と、新たな取り組みに向けた話が盛り上がりました。生きもの調査チームの話し合いと、新たな取り組みに向けた話し合いが盛り上がりました。生きもの調査は春に企画している自然観察のイベントや次年度の活動内容についてじっくり話し合う機会となりました。



生きもの調査チームの話し合い

2/2(日)、13(木) 第42回アクティブDAY

両日とも雨、強風の中でしたが、ほとんどのらぼプロジェクトチームが次年度の活動計画の作成に向けての話し合いを行いました。どんぐりプロジェクトは新しい企画である「どんぐりの森観察会」の安全面に考慮した実施方法を確認しました。



どんぐりプロジェクトの話し合い

3/2(日)、13(木) 第43回アクティブDAY

暖かな気候の中、次年度に向けての話し合いや今年度最後の活動を行いました。動物ふれあいは安全面・衛生面に考慮して運営マニュアルを作成し、ヤギがいる風景の企画を実施しました。近くではキッズチームがヤギに関する絵本を読めるコーナーを作りました。



中目黒どろこんこ保育園のミルクちゃんがいる風景



組織運営委員会と朝会

区民の会が発足して1年目。規約はあるとはいえ、こういった場合はどうするのか？と判断ができないことがたくさん発生します。どういう企画にどんなリスクがあるのか。区民の会としての責任の範囲は？中間支援組織との役割分担は？一つ一つの課題に区民の会としてどう向き合うかを検討するのが、組織運営委員会の役割です。決められた会合の機会のみならず、隔週で朝会を開催し、開園に向け意見交換を重ねています。



＼どなたでも参加できます！

今後の予定

※開催詳細はホームページをご覧ください。



すべて
参加費
無料

拡張予定地開放日 毎週日曜日

草地の広場とその周辺の園路やベンチなど拡張予定地の一部を開放します。工事に伴い、開放場所は変更になる場合があります。

アクティブDAY 毎月第1日曜日と第2木曜日 場所：拡張予定地

アクティブDAYは、「公園の使い方」や「公園のあり方」を考え、実践する場です。8つのらぼプロジェクト（今号のP4,5にて紹介）が活動を積み重ねており、どなたでも、いつからでもご参加いただけます。興味のあるプロジェクトへの参加はもちろん、新たなプロジェクトを立ち上げることもできます!!

オープンパークの日程告知 6/6,7 10/24,25

オープンパークは、公園整備前の拡張予定地を開放する試験的な取り組みです。パークらぼメンバーが考えた、自然を楽しむ様々なプログラムやイベントを実施しています。2025年度は6月と10月に開催します。



拡張地予定地の暫定開園について



開放エリアに制限があります



玉川野毛町公園の位置



令和6年7月から既開園区域の北東エリア（多目的広場周辺）の改修工事を進めており、令和7年3月末に開園を予定しております。また、令和6年10月から実施している拡張予定地の工事は、令和8年度の開園を目指して引き続き行っています。

工事の様子



雨庭部分（拡張予定地）



パークらぼメンバー募集



パークらぼでは、常時メールマガジンでの情報を希望者にお届けしています。配信をご希望の方は、玉川野毛町パークらぼ事務局までご一報ください。

パークらぼメンバーへの参加は、右の二次元コードよりお申し込みください。

二次元コード



参加申し込み

【パークらぼに関する問合せ】

玉川野毛町公園拡張事業 協働の公園づくり 玉川野毛町パークらぼ事務局
メール: parklab@nogemachi-parklab.com

【玉川野毛町公園拡張事業に関する問合せ】

世田谷区みどり33 推進担当部公園緑地課 建設担当 電話: 03-6432-7910



ホームページ



Instagram

www.nogemachi-parklab.com

Instagram icon: nogemachi_parklab